

大泉中学校第3学年の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。前回のアドバイスから1週間経ちましたが、課題の進捗はどうか。あまり芳しくなかったとしても、焦らず一つずつ解決していきましょう。

今回は「握手」を読むにあたってのアドバイスをしたいと思います。①では“文学的文章に共通して言えること”について、②③では“今回の文章に特有のこと”についての助言になります。

● 「握手」



①描写表現がキーポイントに直結

文学的文章（物語や随筆、詩歌など）において、今まで3つの**描写表現**を学んできました。（あえてここには書きません。）この3つの描写表現がどこに表れているかを読み取っていきましょう。これらは登場人物の心の動きをおさえるうえで根拠になる部分です。登場人物の感情や考えをおさえれば、文学的文章はぐっと読みやすくなります。

②ルロイ修道士のモデル ジュール・ベランジェ氏

便覧 p.149 にジュール・ベランジェ氏という人物が紹介されています。彼はルロイ修道士のモデルになった人と言われています。ジュール・ベランジェ氏について調べると、ルロイ修道士との**共通点**や**相違点**が見つかります。ルロイ修道士がどのような人物か想像しやすくなりますので、調べてみてください。

なお、調べるにあたってキリスト教(カトリック)についての知識が必要になることもあります。「？」となる場合があるかもしれませんが、それを調べることに挑戦してみましょう。

③この物語のキーワード「手」

この物語は、タイトルを含めて「手」に関する描写が多いです。「手」を使って何をしていたかに注目しましょう。そして、逆の発想もしてみましょう。**「もし手の描写がなかったら・・・」**

挨拶が「握手」でなかったり、ルロイ修道士が実際に「よく聞きなさい」と説教したり、食事の前に手を擦り合わせていなかったり、、、

すると、皆さんの目にはルロイ修道士がどのように映ったでしょうか。そうすると「手」がどのような効果を持っているか考えることができるはずです。

今回のアドバイスは以上です。最後にルロイ修道士の教えで締めたいと思います。

「困難は分割せよ」

国語科担当 鈴木、梶

